

# 安来市議会「やすぎ未来トーク」報告書

開催日時：令和 4年 6月19日（日） 13:30 ～ 15:20

開催場所：伯太町母里交流センター 視聴覚室

報告書作成者： 清水 保生 提出年月日： 6月24日

## 1. 出席者等の状況

申込者の状況		参加者数		
団体等の名称	代表者氏名	男	女	計
伯太地区連合自治 会長会	岩見 良	15人	7人	22人

派遣議員の状況			
派遣対象委員会名： 広報広聴 委員会			
派遣議員氏名			
佐々木厚子	清水保生	向田 聡	三島静夫
原瀬清正	三原哲郎		

## 2. 主な質問・意見等（要点を箇条書きで。）

### ①移住定住支援分科会

#### 住まいの情報・確保

- 空き家バンクの情報が少ない。PR 不足・工夫が足りないのでは。
- 住まいの確保が移住定住しようとする者にとっては重要。
  - ・登録物件の数を増やしてほしい。空き家はあるが、登録が少ないのでは。
  - ・空き家を使ってほしい人（持ち主）と空き家を使いたい人（移住者などの借り手）の仲介を市が積極的にやってほしい。
  - ・移住してきた者にとってメリットとなる対策支援がほしい（定住に繋げていくためにも、例えば数年住めば家賃は無料とか。移住者への補助金・家賃支援等）。
  - ・中山間地を希望する人には、田や山がついてくるなどの情報（特典）があるといい。
  - ・古民家も、何年か住めば無料にするなど特典があれば、空き家対策解消につながる。
  - ・お試し住宅を無料にしてほしい。

- ・都市計画区域外での規制の緩和や定住特区をつくるとか。
- ・農業振興地域や、市街化調整区域でも、家の新築や駐車場を作ったりできるようにならなければ人の流出につながる。
- ・移住者へのサポートができるよう近隣の方へのアドバイス支援。

#### 人口増対策

- 人口増にどうつなげていくかが全ての問題につながる
  - ・人口が増えている地域の特徴を探る。
  - ・この問題についての議論や熱意が感じられない。
- 働く場の確保
  - ・企業誘致、産業振興（安来の特徴を生かす・情報高校卒業生の進路）、工業団地推進（場所の確保）
  - ・近場で働く（働きやすい所）場の確保。女性が働きやすい条件をつくる（学童保育など子育て支援の充実）。まずは地元の人を優先した働く場の確保を。
  - ・働く場として、製造業だけでなく、医療・福祉の場の充実も必要。
- 結婚支援活動
  - ・シニア年齢世代に対する支援も。

#### 伯太（安来）の良さのアピール

- 地域・人とのつながりが豊か（自然環境・地区自治会・行事まつり）
  - ・つながりも程よい関係が保てる。気軽に声かけられる。
  - ・高齢者が元気。多世代の中で、子ども達もびのび暮らしていける。
- 利便性・居住性が良い。
  - ・車があれば、旧安来・米子・松江に近く気軽に行ける。
  - ・家賃が安い。

#### ②子育て支援分科会

- ・子育て支援に地域の方を巻き込む仕組みが欲しい
- ・大人と子どもが挨拶をする場をつくらなければならない（ことばの力）
- ・不登校の生徒児童への支援の充実（義務教育後の支援）
- ・子育てと仕事の両立がしっかりとできる支援
- ・給食費を所得に応じて設定してほしい
- ・給食が冷めているためか、骨のついた魚は最初から子どもが食べない
- ・伯太に子どもと一緒に出掛ける場所が欲しい
- ・子育て支援制度の周知をしっかりとて欲しい
- ・子育て支援を含め安来市の政策は市民目線なのか、安来らしさが欲しい
- ・小中学校の再編成は必要だと思う。
- ・安易に小規模学校の統合をしてほしくない
- ・行政はワークバランスの考え方が固い

#### ③高齢者生活支援分科会

##### 移動手段の確保

- ・高齢者の免許証返納も増えるなか、移動手段の確保が困難、タクシー利用は負担

が大きい。

- ・通院や買い物等の移動手段として、タクシー利用に行政からの支援があると嬉しい。(タクシーの公共交通化)
- ・高齢者外出支援事業(市単)があるが、対象が市県民税非課税世帯など、制限が多く利用できない。利用範囲等含め、利用し易い制度へ見直して欲しい
- ・日常の買い物も大切だが、イエローバスは利用し辛い。移動販売車での支援などは有効だと思うが、事業者への支援を行政がしないと継続できないのでは。
- ・比田地区での「小さな拠点づくり事業」は参考となるが、伯太地区では事業主体が少ない。立ち上げに際しては行政の支援をお願いしたい。
- ・デマンド輸送では、万一の事故が起こった時のことが心配。車両の保険などはどのようにしているのか。(また、調べておきます。)

#### 地域との関わり、健康づくり

- ・高齢者だけの世帯にならないような施策が必要。高齢者だけでは農業も維持できない。若者の働く場が必要。
- ・普段から地域との付き合い、コミュニケーションが大切。
- ・長寿社会では健康づくりが大切。高齢者クラブ等が行う活動に少しでも多くの人に参加してもらいたい。
- ・市からの情報、お知らせ等情報伝達の方法は工夫してほしい。ホームページやインターネットを使えない高齢者も多くいる。

【※開催後、2週間以内に広報広聴委員長へ提出。】

